

平成28年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 国際理解教育を通しての学び ー幸せって なんだろうー

団体名 特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド 担当者名 田代 邦子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

☛学校との国際理解教育の実践

主に小学校での出前授業（世界の実態や、協力活動で大事な事などを授業の中で話し合う）

先生・児童・生徒たちの取り組みに助言し、その活動を手伝う

1学期は、世界を知る→連携校に出前授業に行く

2学期は、児童の実践活動に協力して、カンボジアに支援物資を持ち込む

3学期は、HGは活動の結果の報告をし、子どもたちの活動が、何処でどのような役に立ったかを報告

児童もこの授業を通して考えたことや、今後につながることを、話し合いまとめる

連携校での出前授業（本部スタッフ・カンボジア人留学生・カンボジアからの訪問者）

岡山県：小学校6校 第3藤田小学校（5/18, 6/14, 7/11, 10/21, 2/3, 2/15）平福小学校（5/24, 1/27）

朝日塾小（5/25, 11/14）政田小学校（5/26, 11/2, 11/21）野谷小学校（6/18）岡山市立曾根小（9/8）

中学校1校 岡山精秀中学校（12/8）高校1校 岡山学芸館高校（12/8）

宮城県：小学校2校 石巻市立渡波小学校（ネットで交流）東松島市立野蒜小学校⇒統合されて新築／東松島市立宮野森小学校（訪問・支援）

学校以外：ライオンズ・ロータリークラブ（9/21, 10/29, 11/15, 12/18, 2/3）アニモの会（6/25）他でおかやまESD活動を広報（イベント・パネル展）

スカイプ交流：今年もスカイプで学校と現地を結んで交流した。お互いの個人カードを好感して交流

◎第3藤田小学校6年生3回スカイプ交流（7/11, 2/3, 2/15）

☛現地へのスタディーツアーの受け入れ

*東南アジア事務所・シェムリアップ支所受入（HG活動説明や国際協力について説明、質問に答える（活動現場見学）

・大学生現地研修ツアー（岡山大学、神戸学院大学、新潟国際情報大学、筑波大学他多数）

*カンボジア日本語教室&NCCC受入

・清秀中学校・学芸館高等学校のカンボジアへの研修旅行の受け入れ（12/21、1/24）

・学芸館SGH調査受入（8/28-28, 1/6）

☛カンボジア教育省から岡山での研修→岡山大学、岡山の小学校での受入れ研修。【添付1】

岡山市立綾南小（10/17）、岡山市立中央小（10/18）、岡山市立妹尾小（10/19）、岡山市立第3小（10/21）、倉敷市立面島小（10/24）、岡山大学（10/20）

☛カンボジア派遣 岡山市の教員4名を派遣して体育科教育の実技講習会を開催 【添付1】

☛イベント（ESD関連）物資支援・募金

・チャリティー親子マラソン in おもちゃ王国（9/22）を開催

・アンコールワットウォーキング、NCCCなどに日本から子ども達の集めた物資（鉛筆、ボール、石鹸、歯

ブラシ、Tシャツ、ノートなど）を支援（12/4）した【添付 2】

- ・ 募金は、現地でボールを購入したり、マットを作成して現場に届け、支援先の学校に報告【添付 3】
- ・ 運動会は、岡山大学教員、岡山大学学生ボランティアがカンボジア・バタンバン州の小学校での開催（12/25）に参加、協力
- ・ ESD 岡山こどもフォーラム参加（有森代表講演・パネル展示）1/22
- ・ 活動報告会（ままかりフォーラム）10/22

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

☛総合的なものの見方を養う

単に途上国に支援するというだけでなく、資源/経済/環境など地球規模で問題をとらえるように指導

- ☛活動を保護者や生徒会、地域に広げることによって、自分たちのまわりを変えていく（社会性）
- ☛知る→関わる→変わる（知識として知るだけでなく、現地と実際に関わることによって、自分たち自身が変わっていく事を最終目的とした）
- ☛継続する意味の確認 社会的な活動は継続することで、社会を変えることが出来ることを実感（自信）
- ☛多くの人と一緒にする活動によって、より大きな力になることを体験 【添付 4 現地からのカード】

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

- ☛自分たちの活動が相手に伝わったことで、遠いと思っていた人たちが近くに感じられるようになった（顔の見える協力・交流）
- ☛カンボジア人や現地に入った人から直接話を聞くことで、自分たち自身の立ち位置が理解でき、はじめはかわいそうと思ったことが、途上国の人々の生きる力に感動し、頑張っている人々への尊敬が生まれた。そして、自分自身も頑張る事の大事さを確認できた。
- ☛今自分たちなりにできる活動があり、将来社会に役立てる人間になるという決意が生まれた。
 - ・ 見えないものを見る目・聞こえない声を聞く耳を持ち
 - ・ まずは実行する手と足を使い
 - ・ 相手の立場に立って考えられる冷静な頭脳と温かい心を育むことを目指して進む大切さ
- ☛寄り添い→出会い→共感→結びつき→目の前で起きる他者の起き歩み→自らの生に決定的な肯定を与えられる。このようなサイクルが個人の中に息づいた。
- ☛今年もスカイプを通して直接現地と教室を結んで交流を持った。今年は、事前にお互いに個人カードを交換して相手をより理解できるように工夫した。双方発表したり、日本の児童の演奏のもと、同じ歌を歌ったりして楽しんだ。まさしく遠くにいても、顔の見える交流が出来、相手を身近に感じられたネットを利用しての新しい交流は、学校では遅れているので、どんどんと広げていきたい
岡山市の学校が、IT を十分に使える状況にないことがネックである
- ☛高校、大学生で現地訪問をした場合は、ものの考え方（グローバルな見方）が大きく変化する
- ☛来年度以降も ESD 教育で、日本とカンボジアの学校と交流したいとの希望が協力学校から寄せられた
- ☛学生たちからの感想文は、HG にとってもこの活動をしてきてよかったと思う感想文であった

4. 今後の課題と展望

- ☛ 2015年のユネスコ世界会議をきっかけに、岡山市ではユネスコスクールに参加する学校が増えてきている。サービスラーニングとして、今後も学校の国際理解教育に協力していきたい

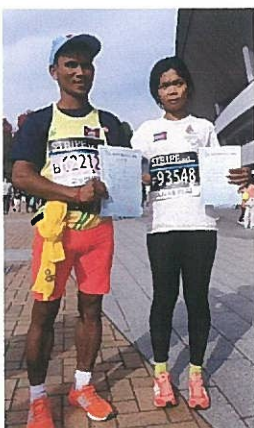
2017年度の活動予定

- ☛ 国際交流 グローバル人材育成を実践する高校・大学が増加している。支障がない限り学生たちが国際協力の現場を正しく理解し、実践し、進んで未来をつくる力を持つ青少年育成に協力したい
インターンとして、現地や本部に長期に活動する人々を受け入れる予定である
カンボジアの青少年の研修（短期留学）を岡山で引き受けたい
- ☛ 平和構築（カンボジアとの連携強化）
来年度もカンボジアの教育省関係者の岡山での研修を計画
岡山とカンボジアの教育関係者のパイプを強固なものにしていきたい
おかやまマラソンに本年も障がい者ランナーを招へいできるように計画したい
- ☛ 世界は急速に IT 化しているので、子ども達が社会に出るころには、想像がつかないほどの変革が起こることが容易に想像できる。それに合わせた、IT 機器を有意義に使える人材育成をする必要に迫られている。学校も NPO/NGO もより人材育成の必要を強く感じている。

5. 活動写真



朝日塾小学校 出前授業（カンボジア障がい者ランナー、パラリンピック委員会会長）



おかやまマラソンに招待した障がい者ランナー





歯ブラシを持っていない子がほとんどです。
日本からの歯ブラシで、歯みがき練習

日本の学校と交流している NCCC の子ども達 (プレゼントは子ども達の宝物だそうです)



児童が送った支援金でマットを作成、学校に配付

岡山市の先生方がカンボジアの学校で講習会



←綾南小学校

↑第3藤田小

カンボジア教育省大臣顧問、局長、他 9 名が岡山の小学校・岡山大学にて研修 (報告書添付)

寒中お見まい申し上げます。
 こえにちは、菜奈子です。お元気ですか。
 和達は、鼓留隊をひきつぐ番になって
 六年生に教えるつもりです。
 私はアルホルになりました。
 みんなでちかう音を出したり、高い音
 を出すのが、むずかしいです。でも、
 ハルトオブゴールドさんにもらった、
 ホルムを着て、がんばります。

→ 宮野森小学校落成式（現地木村先生右）
 ← 渡波小学校からのお礼の葉書



カンボジア BBU 大学にて、学芸館高校の学生によるプレゼンテーション

学芸館高校生の NCCC でのボランティア活動（浄水器ホース修理）



← 第3藤田小学校が演奏して、NCCCの
 のども達と一緒に
 「幸せなら手をたたこう」を歌いました。



1年間の生活用品を日本の子ども達から、毎年プレゼントとして届きます。